

## 佐賀県コスメティック産業連携支援計画

### I 必須記載事項

#### 1 連携支援事業の目標

##### (1) 支援対象とする事業分野

###### 【対象事業分野】

本計画においては、佐賀県及び県内市町が作成した同意基本計画における以下の地域特性を活用した事業分野を対象とする。

- ・佐賀県の化粧品関連産業のネットワークを活用したコスメティック産業分野

なお、本分野では、化粧品関連産業はもとより、原料となる農林水産物などの素材分野、容器となる陶磁器分野、地産原料を応用した健康食品分野、上記による産業製品やサービスが訴求する観光分野を含むものとする。

###### 【背景及び取組状況】

佐賀県及び唐津市、玄海町では、唐津市、玄海町を中心とした佐賀県ひいては北部九州に、美と健康に関する産業を集積し、中長期的には、成長するアジア市場のコスメの拠点となることを目指すコスメティック構想を推進している。この構想がスタートしたのは平成25年。そのきっかけは、平成24年にフランスにある世界最大の化粧品産業クラスター「コスメティックバレー」のアルバン・ミュラー元会長が佐賀県唐津市、玄海町を訪れ、当該地域のカンゾウ等の薬用植物や柑橘類をはじめとする農産物などの地域天然資源に注目。既に唐津にミニクラスター（化粧品製造、検査・輸入代行、保税物流）が形成されていたこと、アジアへの地理的優位性、豊かな自然環境と高い農業技術、玄海町の薬用植物栽培研究所（薬草園）や佐賀大学などの研究機関があることなどから、この地はコスメ産業の発展に適していると評価されたことに始まる。

佐賀県唐津市は平成25年4月にフランスのコスメティックバレーと連携協力協定を締結。同年11月には佐賀県を中心とする北部九州に国際的コスメティッククラスターを実現するための推進母体として関連企業や大学等の研究機関、行政等で構成されるジャパン・コスメティックセンター（JCC）が設立された。JCCは、平成30年2月現在、約210の会員（うち民間事業者数191、大学13）で構成されている。JCCはコスメティック構想の実現にむけて、海外化粧品関連団体との連携を促進しており、現在フランスのみならずイタリア、スペイン、台湾、タイの団体との連携協定を締結し、このネットワークを活かした国際ビジネスマッチングを推進している。また、国内生産量日本一のハウスみかんや佐賀県馬渡島固有種のゲンコウをはじめとした柑橘類、佐賀県加唐島に4万本以上自生しているツバキ等の地域資源等や薬草園が持つ薬草栽培のノウハウ等を生かした「天然由来原料の供給地」となることも目指して、地域と産業のマッチングも行っているところである。さらに、産業の集積を目指すうえで、行政と連携して国内外企業誘致活動も行っている。取組開始以降、6件の化粧品関連産業の企業進出や3件の起業家が生まれたほか、輸出入、地域資源を活用した商品開発、地域産品の化粧品原料化の実績も

生まれている。

自治体としては佐賀県、唐津市、玄海町が、また、大学としては佐賀大学、西九州大学、九州大学など13大学、地域産業支援機関・研究機関としては佐賀県地域産業支援センター、金融機関としては佐賀銀行、唐津信用金庫、福岡銀行がJCCの会員として参画している。

また、唐津市及び玄海町においては、平成29年度から5年間の地域再生計画を作成し、国の承認を得て、地産原料の開発や海外企業の誘致、さらには、製品企画と輸出販売能力を併せ持つ地域商社の設立・運営支援を展開している。現在、地域における産業集積に必要で強みとなる加工・製造レンタル工場の整備を進め、オーガニック化粧品メーカーの進出が予定されている。

以上の背景を基盤に、国際的コスメティッククラスターを創造するため、今回の取組を通じて、産学官金の各支援機関が連携して地域経済牽引事業を支援していく。

## **(2) 地域における産学官金の地域経済牽引支援機関の連携による切れ目ない支援体制の構築**

これまでの活動から、起業・創業や企業進出・立地、地産原料・商品の開発・販売の実績が出始めてはいるが、以下の課題も顕在化してきている。

- ①国際取引の流通性が高まるEU市場や成長するアジア市場への輸出促進に向けて、現地流通との太いパイプ構築が不可欠
- ②市場投入されてもリピートしない商品の克服のために、市場競争力とリピート率向上のためのマーケティング力、プロモーション力の強化
- ③スタートアップ企業の成長を加速させる資金調達などの経営相談・創業支援の充実
- ④国内外の企業が進出に際し期待する以下の支援
  - ・投資への支援やレンタルオフィス等の受皿機能の整備
  - ・イノベーション環境としてのR&D機能の整備
  - ・求める産業人材の育成機能整備と雇用確保の支援

以上の課題に対応するため、

- ① JCCのネットワークを活かし、海外化粧品団体や日本貿易振興機構(JETRO)等との連携による流通ノウハウの蓄積とシステムの構築
- ② JCC、産業支援団体等によるマーケティングセミナーや共同プロモーションの実施、地域一体となったブランド戦略構築
- ③産業支援団体や銀行等による経営支援体制、関連産業やベンチャー企業等が参画するメンターシステム(イノベーションを求める大企業、ベンチャー経営者や投資家などが起業家を応援するシステム)、アクセラレーションプログラム(起業家の成長を支援する短期集中型の教育研修プログラム)の設計・展開
- ④自治体や産業支援団体等によるインキュベーションに関する支援制度及び施設、大学や公設試等の研究開発支援体制、大学や専門学校、地元高校と連携した人材輩出・就業支援体制、

など、産学官金のそれぞれの強みを発揮し、相互のネットワークによる効率的・効果的な切れ目ない支援体制を構築する。

### (3) 地域の各地域経済牽引支援機関の役割と責任の明確化

当該連携支援事業を共同で実施する各地域経済牽引支援機関の役割と責任を明確にすることによって、効果的に連携支援事業を実施する。

#### 【主な支援機関】

- ・一般社団法人ジャパン・コスメティックセンター
- ・公益財団法人佐賀県地域産業支援センター
- ・国立大学法人佐賀大学
- ・株式会社佐賀銀行

### (4) 地域内で不足する支援機能の地域外からの補完

#### ①国際分野

海外企業とのビジネスマッチング、各国市場の販路開拓及びプロモーションを効果的に進めるため、現地企業ニーズ、バイヤーとのコネクションや社脈などを有する現地コーディネート機能が必要であり、地域内の支援機能では不足する。

したがって、当該不足機能を、JCCが連携協定を締結するフランス、イタリア、スペイン、台湾、タイの化粧品団体との連携より補完する。

- 1) フランス (シャルトル) : Cosmetic Valley (1994年設立、会員約800社)  
世界最大といわれる化粧品産業クラスター組織。最終生産まで、関連産業全体をカバーする企業（多くは中小企業）が集積している。
- 2) イタリア (クレマ) : Polo Tecnologico della Cosmesi (2014年設立、会員約50社)  
メイクアップとスキンケアの高い専門性を持つ大手企業が集結。革新（イノベーション）を志向し、市場調査、人材教育、高品質開発を強みとする。
- 3) スペイン (バルセロナ) : Beauty Cluster BARCELONA (2014年設立、会員約70社)  
R&Dの強化、国際化、マーケティングやブランド地位確立、トレーニングに注力。  
国内化学工業の内44%が当該地方に位置し、近隣にバイオクラスターや医薬品企業、研究施設などが多数ある。
- 4) 台湾 (台南) : Taiwan Beauty Valley (2016年設立、会員約50社)  
国際市場における認知度を高めていくため、包括的なエコシステムを構築し、産業界、政府、学会、研究機関、医療機関を結び付けることを目的としている。
- 5) タイ (バンコク) : Thai Cosmetic Cluster (2014設立、会員約20社)  
中小企業の水平展開を作り出すことを目的とする化粧品産業団体。生産性の向上やイノベーションの拡大などが基本方針としている。

また、上記5か国以外の国に対しては、JETRO佐賀事務所を通して、各国事務所と

連携により補完する。

## ②R & D及び人材育成

コスメティック産業におけるR & D及び人材育成における研究・教育分野としては、化学、皮膚科学、薬学、有機・無機素材などの理系分野、薬機法等の法規制分野、ブランディングやマーケティングなどの経済・経営分野、デザイン等の芸術・工学分野など多岐にわたるため、特定の大学だけでは、守備範囲が不足する場合がある。

したがって、分野によって不足する当該機能を、JCCの支援会員である次の大学との連携より補完する。

西九州大学（機能性等）、九州大学（農学部、工学部等）、長崎国際大学（薬学部等）、福岡大学（複合材料研究所等）、九州工業大学（バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター等）、福岡工業大学（有機素材関連等）、別府大学（香り関連等）、東京農業大学（生物産業学部等）、東京工科大学（光老化研究室等）、東京理科大学（界面科学研究部門等）、信州大学（農学部等）

## （５）想定する支援件数

平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	合計
3件	6件	9件	12件	15件	45件

### 【対象】

- ・地域経済牽引事業計画の承認事業への支援
- ・地域企業の地域経済牽引事業計画の承認につなげていく支援

## （６）その他

## 2 連携支援事業の内容及び実施時期

### （１）事業内容

#### ①総合調整及び事業推進

一般社団法人ジャパン・コスメティックセンターは、対象地域に国際的コスメティッククラスターを形成するための中核機関として、各地域経済牽引支援機関と連携し、国際ビジネスマッチング支援、原料・商品開発及び販路開拓・プロモーション支援、起業・創業支援、企業進出・立地支援を通じて、総合的に地域経済牽引事業を支援する。

#### ②国際ビジネスマッチング支援

1) 主な対象市場はEU及びアジア市場とし、ビジネスマッチングを支援する。

- ・現地提携パートナーと連携し、市場ニーズ及び法的制約等のリサーチ並びにディストリビュータ、流通関係者とのパイプを構築する。
- ・テストマーケティングとして、国際展示会への出展、商談会の実施、現地流通と組んだテスト販売を実施する。
- ・各国のニーズを捉えたブランディングの構築を目指し、製品品質管理＋当地域の天

然資源活用+現地マーケットニーズに適した商品開発など新たな価値創りを支援する。

・商品の販路開拓及びプロモーション活動を支援する。

2) 海外提携化粧品団体やJ E T R Oと連携し、各事業を効率的・効果的に支援する。

### ③原料・商品開発及び販路開拓・プロモーション支援

1) 農林水産物をはじめとする地産の素材を活用した化粧品・健康食品の原料の開発・商品の開発・販売を支援する。

・地産素材の訴求性・差別化要素構築のためのエビデンス取得を支援する。

・マーケットインの商品づくりを支援する。

・地域企業の独自性・訴求性を高め、有力企業との連携などを通じたブランディングを支援する。

・産業界のネットワークを活用した販路開拓と多様な媒体を活用したプロモーション活動を支援する。

2) 佐賀県地域産業支援センターは、農商工連携による化粧品・食品の開発に助成する他、センター内に「さが機能性・健康食品開発拠点(通称:さがフード&コスメラボ)」を設置し、専門のコーディネータ及び研究員を配置して、佐賀県工業技術センター等の公設試験研究機関や大学等研究機関が持つ機能性食品・化粧品に関する研究シーズと県内の事業者ニーズとのマッチング支援から、新商品開発支援まで、食品及び化粧品の研究開発のサポートを行う。また、県内企業が海外進出する場合、知的財産権の外国出願経費を一部助成し、海外事業展開を支援する。

3) 佐賀県工業技術センターは、企業ニーズに基づいた共同研究・受託研究を通じて技術成果を地域企業へ技術移転するとともに、各企業の技術・研究に関する相談対応、試験分析に必要な共同利用機器の提供などにより支援する。

また、佐賀県の農業試験研究機関である、上場営農センター、農業試験研究センター、果樹試験場、茶業試験場など、化粧品及び健康食品の原料素材として可能性のある農産物等の栽培研究、栽培種の品種改良などを支援する。

4) 佐賀大学は、世界最大のミカン亜科植物遺伝子資源を保有していることもあり、農学部及び医学部、理工学部が連携し、これら所有遺伝子資源を含む素材・原料・製品の機能性分析、市場競争性のある植物・水産物の栽培技術の確立を支援する。

5) 玄海町薬用植物栽培研究所は、カンゾウ、ミシマサイコ、トウキ、サフランなどの薬用植物の栽培技術研究、市場ニーズに応じた薬草類の試験栽培等を行っており、栽培技術の生産者への移転を行う。

### ④起業・創業支援

1) 新規に事業を起こす人や新規参入を志向する事業者等を対象に支援する。

・創業セミナー、化粧品開発セミナーなどの研修機会を提供する。

・起業創業者への支援を充実するため、アクセラレータプログラムやメンターシステムを構築し支援する。

- ・行政や地域産業と連携し、シェアオフィスやコ・ワーキングスペースなど仕事の環境整備を進める。
  - ・行政及び金融機関と連携し、起業・創業に必要な事業化・経営相談に対応する。
- 2) 佐賀県地域産業支援センターは、創業者やベンチャー、新分野進出に係る中小企業者の課題解決に向けた経営相談、新商品・製品の開発支援、知的財産に関する課題等の相談に対応する。
  - 3) 佐賀大学は、各学部が連携し、企業のニーズに応じた研究開発を支援する。
  - 4) 佐賀銀行は、地域の中核銀行として、本産業の成長に寄与するための、経営相談、法律相談、資金調達、人材育成などについて支援する。

⑤企業進出・立地支援

- 1) 国内外の関連産業の企業進出・立地を支援する。
  - ・本地域への進出・立地を促進するため、PR・営業活動を実施する。
  - ・進出意欲のある企業に対して、行政と連携し、インセンティブ制度の情報提供や、地域産業、地域環境、雇用・労働環境などの情報提供及び相談対応を実施する。
  - ・進出企業に対しては、ビジネスの立ち上げの円滑化や成長を促進するために、必要な支援を実施する。
  - ・企業ニーズに対応した産業人材の育成と輩出を進めるとともに、大学や専門学校、地元高校と連携した就業支援を行う。
- 2) 佐賀県地域産業支援センターは、進出企業のビジネス立ち上げに必要な、各種調達先企業の紹介から、取引マッチング、各企業の課題解決に向けた経営相談、新商品・製品の開発支援、知的財産に関する課題等の相談に対応する。
- 3) 佐賀大学は、各学部が連携し、企業のニーズに応じた研究開発を支援する。
- 4) 佐賀銀行は、地域の中核銀行として、本産業の成長に寄与するための、地域経済情報、経営相談、資金調達、人材育成などについて支援する。

(2) 計画の期間

本計画の期間は承認の日から平成34年度末日までとする。

3 連携支援事業を実施する者の役割分担、相互の提携又は連絡に関する事項

(1) 連携支援事業を共同で実施する地域経済牽引支援機関の名称及び住所並びにその代表者の氏名並びに当該地域経済牽引支援機関の役割

	当該連携支援事業を実施する者の①名称、②住所、③代表者名	④当該連携支援事業における役割
1	①一般社団法人ジャパン・コスメティックセンター ②佐賀県唐津市南城内1-1 ③会長 アルバン・ロバート・ミュラー	当該連携支援事業の代表者 当該連携支援事業の進捗管理 ④国際ビジネスマッチング支援、地産素材の原料化支援、マーケティング・商品開発支援、プロモーション支援、人材育成、関係機関とのコーディネート

		などへの総合的な対応
2	①公益財団法人佐賀県地域産業支援センター ②佐賀県佐賀市鍋島町大字八戸溝114 ③理事長 吉田哲雄	④共同研究、開発技術、知的財産、経営などに関する総合相談対応：コーディネータ及び研究員による公設試験研究機関や大学等研究機関が持つ機能性食品・化粧品に関する研究シーズと県内の事業者ニーズとのマッチング支援と新商品開発支援を行う。
3	①国立大学法人佐賀大学 ②佐賀県佐賀市本庄町1番地 ③学長 宮崎耕治	④原料及び商品の研究開発対応：各種遺伝子資源を含む素材・原料・製品の機能性分析、市場競争性のある植物・水産物の栽培技術の確立を支援する。
4	①株式会社佐賀銀行 ②佐賀県佐賀市唐人二丁目7番20号 ③取締役頭取 坂井秀明	④起業・創業、資金調達、その他経営に関する相談対応：コスメ関連企業に対する経営相談、法律相談、資金調達、人材育成などについて支援する。

(2) 連携支援事業を共同で実施する地域経済牽引支援機関の相互の提携又は連絡に関する事項

<p>地域経済牽引事業に係る事業者からの相談に対して、適切な課題解決を図るため、以下のような体制を構築する。</p> <p>①ステップ1</p> <p>国際ビジネスマッチングに関する相談が寄せられた場合は、JCC事務局内の国際取引担当で問い合わせを受け付ける。</p> <p>「原料・商品開発」及び「販路開拓」等に関する相談が寄せられた場合は、内容に応じてJCC事務局内の原料開発担当、製品販路担当、産学連携担当などが問い合わせを受け付ける。</p> <p>「起業・創業」に関する相談が寄せられた場合は、JCC事務局内の産業集積担当で問い合わせを受け付ける。</p> <p>「企業進出・立地」に関する相談が寄せられた場合は、JCC事務局内の産業集積担当で問い合わせを受け付ける。</p> <p>②ステップ2</p> <p>ステップ1でJCCにおいて単独での課題解決ができない場合には、JCCが中心となり、課題の内容に応じて対応可能な地域経済牽引機関及び海外機関と連携し対応する。</p> <p>③ステップ3</p> <p>ステップ2においても課題解決ができない場合は、JCC及び関係支援機関により構成する検討会について、年1回の定例会と必要に応じた臨時会議を開催し、対応策を協議し、対応する。</p> <p>また、上記の定例会において連携支援事業の進捗状況について確認・共有を図るほか、</p>
---

JCCが開催する年4回の理事会においても、当該年度の事業計画、進捗状況及び前年度の事業実績を確認しており、連携支援事業についても検討・確認を行う。

さらに、佐賀大学、佐賀県地域産業支援センターとは、定例的に開催している月1回の進捗ミーティングにおいても情報交換を進めるほか、佐賀銀行とは、案件の度に、本部又は唐津支店等と密な連携を行っていく。

## Ⅱ 任意記載事項

### 1 補助金等交付財産の活用に関する事項

(備考)

- 1 記名押印については、氏名を自署とする場合、押印を省略することができる。
- 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。